

## 【基礎分野】

<b>科目名</b>		<b>担当者</b>	<b>実務経験</b>
科学的思考の基礎		専任教師・司書	○
<b>年次・開講時期</b>	<b>時間数/単位数/授業回数</b>	<b>授業の種類</b>	
1年次・前期	15時間/1単位/8回	講義・演習	
<b>【概要】</b>			
<p>科学的思考の基礎として、臨床判断、リフレクション、ナラティブの概念を学ぶ。</p> <p>医療・看護領域における高度情報化に対応できるようになるために、看護に関する情報管理について学ぶ。</p>			
<b>【目標】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床判断、リフレクション、ナラティブについて知る。</li> <li>2. 情報源にアクセスし、情報を得て、理解、判断し、意思決定する「情報処理のプロセス」を理解する。</li> <li>3. 医療・看護領域における情報のモラルの必要性や情報に対する責任について学び、情報管理の方法を理解する。</li> <li>4. 既存の情報の収集方法を知る。</li> </ol>			
<b>【授業内容】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床判断、リフレクション、ナラティブの概念</li> <li>2. 情報リテラシー</li> <li>3. 情報モラル</li> <li>4. 情報倫理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的財産権の尊重、プライバシーの尊重</li> <li>・個人情報の保護</li> </ul> </li> <li>5. 情報セキュリティ</li> <li>6. データのパスワード管理等、基本的なパソコン操作</li> <li>7. 看護学分野の文献検索</li> </ol>			
<b>【教授方法】</b>			
一斉講義 グループワーク			
<b>【使用テキストと参考文献】</b>			
<p>系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院</p> <p>臨地実習における個人情報取り扱いガイドライン 長岡赤十字看護専門学校</p> <p>ほか必要な資料を講義時に配付する</p>			
<b>【評価方法】</b>			
参加度・課題提出			
<b>【備考】</b>			

科目名 哲学		担当者	実務経験
		非常勤講師	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・後期	30時間/1単位/ 15回	講義・演習	
<b>【概要】</b> 看護に関わる命題について、その意味するところを考える。科学的な物事の捉え方、思考のすすめ方を学ぶ。			
<b>【目標】</b> 様々な看護に関わる命題について、実際に受講者にグループで考えてもらうことにより、哲学的な思考を体験する。その体験と、大まかな哲学史の講義を通して、「哲学」とはどのようなものであるか、イメージすることを目指す。			
<b>【授業内容】</b> 1. 哲学のイメージ 「哲学」は世間的にどんなイメージを持たれているのか？ 2. 哲学の始まり 哲学はどんなものとして始まったのか？ 3. 哲学とキリスト教 キリスト教と哲学の出会い 4. 哲学の転換点①とその展開 近代の哲学の転回と展開 5. 哲学の転換点②その後 現代の哲学の転回と展開 6. 哲学とは何か？ *随時、看護に関わる命題について、グループで考える。			
<b>【教授方法】</b> 一斉講義    グループワーク    発表			
<b>【使用テキストと参考文献】</b> 使用する予定はありませんが、必要があれば、授業中に指示します。			
<b>【評価方法】</b> テストまたはレポート、および平常点(授業態度を重視)。 60点以上を以って単位認定とする。			
<b>【備考】</b> 特になし			

<b>科目名</b>		<b>担当者</b>	<b>実務経験</b>
情報科学		非常勤講師	○
<b>年次・開講時期</b>	<b>時間数/単位数/授業回数</b>	<b>授業の種類</b>	
1年次・前期	30時間/1単位/ 15回	講義・演習	
<b>【概要】</b>			
<p>高等学校までの学習を礎として、実験や観察などで得られたデータを統計学的に処理したり、解析したりするために必要な基礎的概念や考え方について平易に解説を行う。</p> <p>理論的な考察には深入りせず、易しい例題などで計算技術を向上させるとともに、パソコンを用いた統計処理演習を行い習熟度を深める。</p>			
<b>【目標】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的に応じて収集したデータを、表やグラフなどを用いて整理できる。</li> <li>2. データの傾向を、代表値などを用いてとらえるなど、統計的な見方や考え方を理解する。それらの計算を、統計的な推測などに活用できるようになる。</li> </ol>			
<b>【授業内容】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 度数分布表、ヒストグラムなど</li> <li>2. 代表値(相加平均など)</li> <li>3. 散布度(分散、標準偏差)</li> <li>4. 相関関係、パソコン演習</li> <li>5. 確率変数と確立分散、二項分布、正規分布など</li> <li>6. 母集団と標本分布</li> <li>7. 推定・検定(母平均、等平均など)、パソコン演習</li> </ol>			
<b>【教授方法】</b>			
一斉講義      演習			
<b>【使用テキストと参考文献】</b>			
基礎からわかる看護統計学入門 第2版			
<b>【評価方法】</b>			
定期試験(約 70%)    小テスト(約 20%)    パソコン演習(約 10%)により総合評価			
<b>【備考】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・規定どおりの出席を定期試験受験の条件とする。</li> <li>・電卓を使用する。</li> </ul>			

<b>科目名</b>		<b>担当者</b>	<b>実務経験</b>
論理的思考		非常勤講師	○
<b>年次・開講時期</b>	<b>時間数/単位数/授業回数</b>	<b>授業の種類</b>	
1年次・前期	15時間/1単位/8回	講義・演習	
<b>【概要】</b>			
<p>論理的な思考や判断に基づいて的確に行動することが、看護師には求められている。そこで、読む・書く・聞く・話すという実践のなかで「論理的に思考する力」を身につける。また、自分の考えや気持ちを相手に的確に伝えるための表現法を学ぶ。</p>			
<b>【目標】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. さまざまな文章を読むことにより、豊かな表現力を養う。</li> <li>2. 自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章を書くための知識と技術を身につける。</li> <li>3. 表現と理解に役立つための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身につける。</li> </ol>			
<b>【授業内容】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文学的な文章と論理的な文章</li> <li>2. 論理的な文章を書く準備① 接続詞、アカデミックワードと日常語等</li> <li>3. 論理的な文章を書く準備② 漢字、調査の方法とデータの解釈等</li> <li>4. 論理的な文章を書く準備③ 結論を先に述べるということ等</li> <li>5. 自然な正しい表現 読みやすさへの配慮</li> <li>6. 文章を書いてみよう 記録文 意見文</li> <li>7. 敬語</li> <li>8. 前半45分→発表の仕方について 後半40分→筆記テスト</li> </ol>			
<b>【教授方法】</b>			
一斉講義 演習			
<b>【使用テキストと参考文献】</b>			
<p>看護師のための文章ノート 日本看護協会出版会 演習プリント随時資料がある</p>			
<b>【評価方法】</b>			
講義内での作文 テスト 出席状況			
<b>【備考】</b>			
講義内容の詳細については初回講義時に提示します。			

<b>科目名</b>		<b>担当者</b>	<b>実務経験</b>
社会学		非常勤講師	○
<b>年次・開講時期</b>	<b>時間数/単位数/授業回数</b>	<b>授業の種類</b>	
1年次・後期	30時間/1単位/15回	講義・演習	
<b>【概要】</b>			
人間と社会の仕組みを理解するとともに、社会のなかでの家族の機能・役割について学ぶ。			
<b>【目標】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.人間と社会の仕組みを理解する</li> <li>2.家族・家庭生活の役割、機能を理解する。</li> <li>3. 家族の形態、役割の変貌を理解する。</li> <li>4. 結婚、夫婦の役割分担の意識変化を理解する。</li> <li>5. 現代家族の諸問題を理解する。</li> </ol>			
<b>【授業内容】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間と社会</li> <li>2.家族とは</li> <li>3. 家族の変貌 「いえ」制度</li> <li>4. 夫婦 夫と妻パートナーシップ 結婚と離婚 DV</li> <li>5. 親子 ペアレンティング 母性論</li> <li>6. 祖父母の役割</li> <li>7. 家族の機能とその外部化 地域と家族 職場と家族</li> <li>8. 近代家族の特質</li> <li>9. 高齢化社会と少子化</li> </ol>			
<b>【教授方法】</b>			
一斉講義			
<b>【使用テキストと参考文献】</b>			
随時資料がある			
<b>【評価方法】</b>			
客観テスト			
<b>【備考】</b>			

科目名 教育学		担当者	実務経験
		非常勤講師	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・後期	30時間/1単位/15回	講義・演習	
【概要】 教育の理論と方法を学ぶことにより、自己の成長を図り看護に適応する能力を養う。			
【目標】 1. 人間と教育の関係を理解する。 2. 「考える」「学ぶ」ということがわかる。 3. 「教える」「育てる」ということを理解し、看護実践への応用がわかる。			
【授業内容】 1. 教育学を学ぶということ。看護との関連 2. 人間と教育 デューイとカントの説 3. 子どもと教育 教育的関心 4. ポルトマン 生理的早産について 5. 子どもの教育について 6. 学校を考える 7. 今日における学校の課題 8. 管理教育について 9. 学校教育といじめ問題 10. 教科書を考える 11. 異文化教育について			
【教授方法】 一斉講義			
【使用テキストと参考文献】 系統看護学講座 基礎 教育学 医学書院			
【評価方法】 客観テスト			
【備考】			

<b>科目名</b>		<b>担当者</b>	<b>実務経験</b>
生物学		非常勤講師	○
<b>年次・開講時期</b>	<b>時間数/単位数/授業回数</b>	<b>授業の種類</b>	
1年次・前期	30時間/1単位/ 15回	講義・演習	
<b>【概要】</b>			
解剖生理学や生化学への橋渡しとして、生命の基本現象や法則性を中心に学び、生物学の基礎的な知識の習得を目指す。また、生命科学・生命倫理について考える機会とする。			
<b>【目標】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細胞の構造、核酸、酵素、代謝、ホルモン、神経系、免疫などの生物学の基本的な知識を理解する。</li> <li>2. 理解した知識について説明できるようになる。</li> <li>3. 生命科学、生命倫理について考える。</li> </ol>			
<b>【授業内容】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生物学の基礎</li> <li>2. 細胞と生物を構成する物質</li> <li>3. 栄養と代謝</li> <li>4. DNAと遺伝情報の発現</li> <li>5. 細胞の増殖と生殖、発生、分化</li> <li>6. 動物の組織と器官</li> <li>7. ホルモンと生体調節、神経系</li> <li>8. 免疫と感染症</li> <li>9. 生命システムの破綻</li> <li>10. バイオテクノロジーと医療</li> </ol>			
<b>【教授方法】</b>			
教科書と配布資料、スライドによる説明を用いた対面講義を行う。			
<b>【使用テキストと参考文献】</b>			
医療・看護系のための生物学 改訂版 裳華房			
<b>【評価方法】</b>			
授業態度 10% (出席状況、授業中の発言、態度等をもとに評価する) 筆記試験 90%			
<b>【備考】</b>			

<b>科目名</b>		<b>担当者</b>	<b>実務経験</b>
人間関係論		非常勤講師	○
<b>年次・開講時期</b>	<b>時間数/単位数/授業回数</b>	<b>授業の種類</b>	
1年次・後期	30時間/1単位/15回	講義・演習	
<b>【概要】</b>			
コミュニケーションおよび集団力動に関する基礎知識を学ぶとともに、対人援助職に求められる良好な人間関係の築き方について、体験学習を取り入れながら理解する。			
<b>【目標】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーション理論、および、集団力動理論について学ぶ。</li> <li>2. 人間関係向上に向けた基本的知識と姿勢を習得する。</li> <li>3. 自己理解、他者理解の重要性を理解する。</li> </ol>			
<b>【授業内容】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションの基礎理論</li> <li>2. 社会的役割と人間関係</li> <li>3. 集団力動論</li> <li>4. 援助的コミュニケーションの基本姿勢</li> <li>5. 援助的コミュニケーションの実際</li> <li>6. 集団におけるコミュニケーション</li> <li>7. コミュニケーションと間主観性</li> </ol>			
<b>【教授方法】</b>			
一斉講義 グループワーク			
<b>【使用テキストと参考文献】</b>			
系統看護学講座 基礎 人間関係論 医学書院			
<b>【評価方法】</b>			
レポート 講義 ・ グループワークでの発言及び積極的なコミットメント			
<b>【備考】</b>			



科目名 英語		担当者 非常勤講師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・前.(後)期	30時間/2単位/15回	講義・演習	
<b>【概要】</b> 高校までの英語の知識を再構成し英語の読解力を養うための訓練を、リーディング教材を使用して行う。			
<b>【目標】</b> 1. 平明な英語で書かれた文章を正確に読むことができる			
<b>【授業内容】</b> テキスト内容に沿って実施			
<b>【教授方法】</b> 一斉講義			
<b>【使用テキストと参考文献】</b> Caring for People センゲージラーニング(株)			
<b>【評価方法】</b> 定期テスト(前期末、後期末試験)			
<b>【備考】</b>			

<b>科目名</b> 英会話		<b>担当者</b> 非常勤講師	<b>実務経験</b> ○
<b>年次・開講時期</b>	<b>時間数/単位数/授業回数</b>	<b>授業の種類</b>	
2年次・前期	30時間/2単位/15回	講義・演習	
<b>【概要】</b> 外国人講師とのグループレッスンにより日常会話を楽しく学ぶ			
<b>【目標】</b> 1. 英語による聞き取り、対話を通して役に立つ実用的な英語力を身につける。 2. 外国人講師と触れ合い、異文化に関心をもつ。			
<b>【授業内容】</b> ※年度初めにレジメを示す			
<b>【教授方法】</b> 2グループに分かれてグループレッスン 50分ずつ2回グループレッスンを行う			
<b>【使用テキストと参考文献】</b> なし			
<b>【評価方法】</b> 授業への参加度			
<b>【備考】</b>			

<b>科目名</b>		<b>担当者</b>	<b>実務経験</b>
異文化論・グローバルヘルス		専任教師	○
<b>年次・開講時期</b>	<b>時間数/単位数/授業回数</b>	<b>授業の種類</b>	
1年次・後期	15時間/1単位/8回	講義・演習	
<b>【概要】</b>			
<p>近年、あらゆるものが国境を越え、保健医療の分野においても国境を越えて解決に取り組まなければならない課題が増えている。講義では、国際社会の動向や異文化について理解し、地球規模で人々の健康に影響を与える課題と、解決のための国内外の諸活動、国際協力について学ぶ。</p>			
<b>【目標】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. グローバルヘルスの概念について理解する。</li> <li>2. 健康に影響を及ぼす主な要因について理解する。</li> <li>3. 国内外の健康問題とヘルスシステムの違いについて理解する。</li> <li>4. 人間の生命、人間としての尊厳及び権利を尊重したヘルスケアについて考える。</li> </ol>			
<b>【授業内容】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. グローバルヘルスとは <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連する概念について</li> </ul> </li> <li>2. 健康に影響を及ぼす主な要因</li> <li>3. 国内外の健康問題とヘルスシステムについて</li> <li>4. 多文化理解とヘルスケア について</li> </ol>			
<b>【教授方法】</b>			
一斉講義 グループワーク			
<b>【使用テキストと参考文献】</b>			
必要な資料を講義時に配付する			
<b>【評価方法】</b>			
参加度・課題提出			
<b>【備考】</b>			

<b>科目名</b>		<b>担当者</b>	<b>実務経験</b>
人権と赤十字		専任教師	○
<b>年次・開講時期</b>	<b>時間数/単位数/授業回数</b>	<b>授業の種類</b>	
1年次・前期	30時間/1単位/15回	講義・演習	
<b>【概要】</b>			
<p>あらゆる状況下において、人間の尊厳と権利を尊重し、苦痛を軽減することが赤十字の使命である。講義では、国連憲章と世界人権宣言に触れ、国際人権保障の基本概念について学び、そこから発展した国際人権規約、難民条約、女子差別撤廃条約、児童の権利条約、人種差別撤廃条約など国際人権条約について学び、かつ身近な人権問題について考えることで、人権について理解を深める。さらに、戦時・紛争時に適用されるジュネーブ条約を含む国際人道法について学び、人々の尊厳を守るための法的基盤と様々な課題について理解を深める。また、赤十字発祥の歴史とともに赤十字の行動指針である赤十字の基本原則についてとともに、赤十字の基本原則、特に人道、公平、中立を国内外の救援活動、日々の看護実践に生かす方法について考える。</p>			
<b>【目標】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際人権保障の基本概念と国際人権条約および日本の対応について理解する。</li> <li>2. 赤十字の歴史と赤十字の基本原則について理解する。</li> <li>3. ジュネーブ条約を含む国際人道法について理解する。</li> <li>4. 人道的援助における様々な課題について理解する。</li> <li>5. 赤十字の基本原則の実践への適用について考える。</li> </ol>			
<b>【授業内容】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際人権法と日本の対応 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人権宣言の成立と展開</li> <li>2) 国連憲章と世界人権宣言</li> <li>3) 国際人権条約と日本の対応 国際人権規約・難民条約・女子差別撤廃条約・児童の権利条約・人種差別撤廃条約</li> </ol> </li> <li>2. 赤十字と国際人道法 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 赤十字の誕生とジュネーブ条約 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 赤十字誕生と発展</li> <li>(2) 赤十字国際委員会・国際赤十字赤新月社連盟・各国赤十字社</li> <li>(3) 日本赤十字社の歴史と事業</li> </ol> </li> <li>2) 赤十字の諸原則 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 赤十字の基本原則</li> <li>(2) ピクテの赤十字の諸原則</li> </ol> </li> <li>3) 国際人道法 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 国際人道法の概要</li> <li>(2) 国際人道法の普及と監視・処罰</li> </ol> </li> <li>4) 人道的救援活動の具体的事例と課題</li> <li>5) 赤十字基本原則の国内外の救援活動および看護実践への適応</li> </ol> </li> </ol>			
<b>【教授方法】</b>			
講義 ・ グループワーク			
<b>【使用テキストと参考文献】</b>			
Pictet, Jean. 著: 井上忠男訳: 解説赤十字の基本原則, 東信堂. 日本赤十字社: 赤十字と国際人道法 日本赤十字社: 赤十字のしくみと活動 赤十字看護研究会: 新人看護師若菜と読む『赤十字の基本原則』 赤十字新聞、赤十字国際会議、その他の資料			
<b>【評価方法】</b>			
授業参加態度, 筆記試験, レポート			
<b>【備考】</b>			

科目名 赤十字活動論		担当者	実務経験
		専任教師 日本赤十字社新潟県支部 職員	
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・前期	15時間/1単位/ 回	講義・演習	
【概要】 学内での訓練や施設見学を通して、赤十字精神・赤十字の活動に関心を持つ。また、人道に基づく赤十字精神を日常生活の中で具体的に実践することを考える機会とする。			
【目標】 1. 赤十字精神・赤十字活動について理解する。 2. 赤十字の一員としてボランティアサービスについて理解する。 3. 常に周囲に関心を持ち、想像力を働かせて自発的に行動する。			
【授業内容】 I. 赤十字トレーニングセンター 1. 赤十字の活動 2. 赤十字の一員として「気づき、考え、行動する」こと 3. 救急法の基礎 II. 日本赤十字社新潟県支部の活動の実際 1. 赤十字の活動の実際 2. 新潟県支部の事業内容			
【教授方法】 授業内容 I. 赤十字トレーニングセンター 授業内容 II. 日本赤十字社新潟県支部の活動の実際 講義・支部研修			
【使用テキストと参考文献】			
【評価方法】 参加度、研修後レポート			
【備考】			